

本当に流域治水が最適解か？

1. 国土の約10%の洪水氾濫危険区域の中に、人口の約50%、資産の約75%が集中（富山市域：L1@344,576人、L2@385,906人）
2. 線(河道)から面(流域)へ⇒コンセンサスはこれから（国土のあり方、社会のあり方）
3. L1（計画規模）で本当に安全なのか？⇒科学、工学的な評価
4. 流域治水における要素技術の科学的・工学的評価
 - A) 利水ダムでできること、できないこと（今のところ、国民の誤解、過信が非常に大きい）
 - B) 田んぼでできること、できないこと（ゆっくり洪水導水しても良い）
 - C) 本当に市街地に流しても良いか？（都市の水システム）
5. 被害の配分＝不利益分配（不利益の配分）問題
 - A) 何の被害を最小化するのか？
 - B) どこが浸水するのか？どうして私の土地が浸水するのか？
6. 使用する言葉の共通化・定義を明確に
 - A) 流域治水とはどのレベル？
 - B) 例えば、洪水導水と田んぼダム